

時空を超えてみませんか？

有名な芭蕉の俳句「夏草や兵どもが夢の跡」や「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」では、時間的・空間的に、「夢」が現実を飛び越える様が描かれています。誰かが書いた文字を誰かが読むだけでも時空を飛び越えられます。気が向いた人は、自分に繋がる歴史の系譜を思い描いてみてください。

ちよつと前まで60兆個と言われていたヒトの細胞の数は、最近の研究で37兆個ほどになりました。そのすべてが、数十億年前の生命誕生以来一度も途切れず繋がっているからこそ、今ここに自分が生きているという事実に驚くばかりです。また、ヒトひとり原子数は10の28乗個ほどと言われる、半分以上が水素原子です。残りの元素は、私たちの太陽系が誕生した時点よりも、もっと古い宇宙に存在した超新星が爆発した残骸で、ヒトは正に「星の子」なのです。一方の水素原子は、その大部分が138億年前のビッグバンの直後に生成されてから消滅せず生き残ったものです。極めつき

は、宇宙の創成と同時に誕生し今も私たちをくまなく取り巻くこの時空間かも知れません。自分の世界すべてがビッグバン直後に生まれ、我が身の少なからぬ部分が灼熱の巨星で燃え盛り、ごく一部は恐竜として大地を闊歩していました。そして、はるかアフリカの平原で生まれた人類がこの地にたどり着き、歴史を経て幾多の戦乱をも経験しました。これらすべてが私たちの身体に刻み込まれています。

「マッチ売りの少女」の白昼夢とは異なり、時間・空間的に隔たった事象をできるだけリアルに知覚できれば、その人の人生はより一層豊かになることでしょう。

